

概要版

令和5年度第3回野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり協議会 会議録

開催日時	令和6年3月15日(金) 午前10時30分～正午
場所	野洲市総合防災センター 2階 研修室
出席者	委員7名中6名
傍聴者	9名

1. 開 会

事務局(野洲市都市建設部 次長)から協議会成立の報告

市長挨拶

2. 議事

- (1) 第2回協議会と市民説明会の概要及び意見に対する方向性について  
資料1に基づき説明

主な質問・意見

委員からの質問等、特になし

- (2) 野洲市 MIZBE ステーションかわまちづくり計画(案)について  
資料2に基づき説明

主な質問・意見

事務局 欠席の委員から頂戴した意見を紹介させていただく。1点目、落差工および低水路の安全対策整備とは何をされる予定か。2点目、安全対策を整備するというより自然の厳しさを教える場として活用してはどうか。3点目、自転車が河川に降りて、かつ活動できるようにしてはどうか。4点目、資料2の4ページ(4)人材の育成支援促進の「県立高等専門学校や地域企業と連携した技術研修のフィールドとして活用し、若手技術者の育成を図るとともに、地域が抱える課題解決のための高度技術の利活用を目指します。」という文言を、知事のメッセージや一般的な高専の特色を踏まえ「県立高等専門学校と地域企業が連携し、共同研究するフィールドとしても活用し、若手技術者の育成を図るとともに、地域が抱える課題の解決を目指して技術開発を進めます。」として

はどうか、という意見をいただいている。

事務局

1点目の落差工および低水路の安全対策は、参考資料5でお示したとおりである。

2点目は、毎年7月の河川愛護月間での取組、野洲川沿川では幼稚園・保育園・小学校・中学校を対象に河川利用にあたっての安全啓発を概ねの3年間で一巡するように実施している。また、野洲川で実施している環境学習や、沿川自治体が開催している野洲川冒険大会などのイベントにおいても安全啓発を実施している。引き続き、機会を捉えて安全啓発を実施したい。

今回のかわまちづくりにおいても、川の中での活動も含めて、各活動団体との連携も図りながら、自然の厳しさを教える取組を検討したい。安全対策については、説明したとおり、河川管理者として必要と考える対策を実施したい。具体的な対策は今後検討することになるが、現時点では、落差工から飛び込むことができないように階段状にするような対応を考えている。

3点目について、ビワイチなど自転車の動線として繋がっているため計画の中に盛り込んでいきたい。ただし、歩行者の動線もあるので、各利用者の立場で安全な導線を検討する。

B委員

4点目のご意見の内容は、高専のカリキュラムの中で検討を行うものと考えている。本計画で踏み込む必要はないため、事務局でまとめた文言が良いと思う。今更であるが、表題が「人材の育成支援促進」であるなら、「若手技術者云々を目指すために、技術フィールドとして活用します」と文言を入れ替えた方が表題に整合すると思う。

A委員

B委員と同じ意見で、文言を入れ替えた方が計画書としては適切だと思う。技術開発のところまで踏み込むのか、高度技術の利活用に留めるのかについては、高専にて取り組んでおられるので意見はない。

それから、前回の協議会でもサイクルパークのエリアに河川も含めるよう意見をいただいている。アイディアはすごく良いと思うが、一方で、歩行者の動線や河川管理用道路を横切ること懸念があるため、計画を詰めていく中で河川管理者としても検討させていただきたい。連続性を持たせるというのは意識して計画を具体化したい。

E委員

計画エリアを落差工の区域まで広げ、その中で水辺の整備や水とふれあう広場を作っていただけると説明いただいた。また、落差が4mという説明もあったが、安全の担保は非常に難しいと考える。あくまで意見であるが、落差工を有効に活用いただけるなら、サイクルパークの近くまで川の水を取り込んで、せせらぎ的なイメージの小さな小川を作っていただきたい。木陰も作って

いただくと子どもたちがたむろでき、自然の保護もできると思う。今の子どもたちは、そのような環境が全くないため、危険なところと安全なところを区別して水と戯れることができるというのは MIZBE ステーションのファクターとしてすごく重要なことと考えている。資料5にある落差工の安全対策でも深さが出る。いずれにしても川は危険な場所という共有も必要で、安全な場所との区分けをする整備も必要だと思う。

A委員 落差工の安全対策については、前回の協議会でご意見をいただいたが、確かに水辺に近づけるようにと言っておきながら、すぐ上流では立入禁止とするのは、河川管理者としてちぐはぐな感じは否めないと思い、事務所で議論し、今回、安全対策を項目として挙げている。ただ、具体的な対策は煮詰まっておらず、参考資料5は参考としてお示ししたもので、計画の中に組入れるというのであれば、河川管理者として具体的な対策を今後検討したい。逆に、委員の皆様のご意見として、落差工は危険な箇所として人を近づけないということであれば、安全対策をしない方が良いかもしれないので、そこは皆様との議論の中で判断したい。

野洲川の水を MIZBE ステーション側に取り込むことについては、意見として承るが、人工的に水を引くという発想は今までなかった。河川管理者として、川の外に野洲川の水を導くことは、洪水時の安全性等を勘案すると非常に厳しいと考えている。

E委員 夢物語的なことを言ったが、こういうことが観光の創出になると考える。せせらぎの音を聞きながらバーベキューをしたり、癒しにもなる。新しい観光の拠点ができるという観点から考えており、観光物産協会としても実現できるのではと考えている。木陰と人工のせせらぎがある場、せせらぎから先は川として、野洲川というのは非常に危ないということを教える場となるイメージを持っている。

D委員 落差工が整備されてからずっと見ているが、非常に多くの人々が来られている。落差工には魚が来るので釣りをされる方が来られ、当然、子ども達も付いて来るため危険が伴う。先ほど言われたように落差工には立ち入らないようにしていただけるとありがたい。

委員が言われたせせらぎができれば、それはそれでいいかなと思うが、川全体に行けるとなると危険な場所が出てくる。野洲川は場所によって水の流れがすごく変わる。深まったり浅くなったり絶えず繰り返すので、エリアを決めて整備されるとよいと思う。

議長 この件に関しまして、落差工等の危険な個所に安全対策をするというご意

見と、従来どおり危険だということで、シャットアウトするというご意見が出ている。今後、どちらの方向で進めていくのかということをお委員の皆さんからご意見をいただきたい。

E委員 先ほど申し上げたが、安全な場所とそうでない場所と区別をするということも MIZBE ステーションの役割だと思う。教育の場である。この位置付けは重要なことだと思う。落差工が階段状になり、ふれあえる環境が作られたとしたら利用者は川に入りたくなる。はっきり区別するのも MIZBE ステーションの役割と考える。

F委員 同意見である。

B委員 賑わいの創出という考え方からすると様々なやり方があると思う。一点、この辺りの漁業関係の調整はこれからするのか。

事務局 野洲川の河口部から上流 13.8km 付近の石部頭首工の間については、漁業県は設定されていない。この計画付近の野洲川には漁業関係者はいない。

議長 3名の委員は危険な所と水と親しむ場所のメリハリをつけたらどうかというご意見だったが、A委員どうでしょうか。

A委員 河川管理者の立場で言うと、事故があると管理瑕疵という話もあり得るため、必ず開放したいと思っているわけではないが、入ってはいけないと言っても人が立ち入ってくるような場所であり、親水性の高い魅力的な施設となるポテンシャルがあると考え、ちぐはぐになるという問題意識のもとで、検討させていただいたものである。地元の皆さんのご意見を押し切ってまで入れるようにするのは難しいと思っているので、安全対策というメニューを最終的に計画に書き込むかどうかは、市長とも相談をさせていただきながら、最終的な判断をしたいと思う。

議長 確かに安全な場所と危険な場所でメリハリつけることは大事なことだと思う。ただ、水と遊んで水と触れ合ってもらえるという MIZBE ステーションのすぐ近くに落差工がある。川に親しんでもらえるように呼び込んでいるので、一定の安全対策が必要だと思う。委員から危険だというご意見もあるので、それを基本に再度検討をさせていただくということで事務局もよろしく願います。

F委員 5 ページに「隣接する県立高専の地域企業との連携」と書いてあるが、これ

はどのような企業を指しているのか。

事務局        まだ企業とコンタクトは取っていない。高専もこれからだと思う。高専のカリキュラムを見ながら高専生と地域企業が、地域の課題等に対して、どういう取り組みができるかというのを確認してからとなる。

F 委員        地域の企業から高専の卒業生に来てもらいたいという話を聞いた際、優秀な人材が地元の企業に入ってもらえるのが良いと答えたが、高専もそのような考えを持ってもらえるという認識で良いか。

B 委員        当然、そういうことも考えていきたい。元々、県立の高専を作る際に地元で活躍してもらいたいという思いを経済団体から聞いており、大きな1つの目的であるので今後検討していきたい。地元・大手の企業だけではなく、県内の他の企業も含めて、優秀な学生が滋賀県に根付いていくということも視野に入れながら企業と連携をしていきたい。

E 委員        10 ページの定量的目標（案）の目標値だが、野洲市の人口に満たない数値が目標値とされている。この目標値で全ての物事の検討を進めるのか、この数字の根拠について説明をいただきたい。

事務局        目標値は、表のとおり、エリアの各施設に考え方と想定人数算定式をお示ししている。例えば、陸上競技場は1年間の活用いただける利用者数で、近隣の施設の実績や高専の年間活用回数、人数を積み上げている。テニスコートについても、考え方の項目に、4人1組が1組ずつコート8面を利用するという想定のもとに休日と平日で年間の人数を積み上げている。それぞれ無理なく、しっかり年間通じて活用いただくという、ニーズ、人数設定のもとで目標値を決めている。

E 委員        テニスコートのことに触れられたが、テニスコートは整備内容によって、来場者、利用者数が大きく変わる。この目標値はどちらかというと最低限という説明と認識したが、目標は高い方が良く、それに伴う施設整備が必要となる。また、マルシェが流行っているが、常にマルシェができる設備を整えれば、この来場者数には絶対とどまらない。インフラのことも含めてエネルギーの供給、上水、下水などの設備によっては、幅広い利用価値が生まれる。目標値が小さく感じるのも、再考いただければと思う。最近、野洲でミニライブをしたいとよく聞く。若者がそういう場所を求めているので、1,000人規模やMAX5,000人規模の野外ステージが出来る環境を整えておけば、非常に多くの方に利用してもらえる。いつでもオープンに開いている施設であれば、近隣市町からも需要

が生まれると思う。

事務局 マルシェは賑わいを創出するうえでの取組の1つである。現時点では年に2回の開催を想定し、目標設定をしている。施設が供用されるまでには、地域の方々のご協力をいただいて試行的に開催する必要があると考えている。目標値はお示ししたとおりであるが、より多くの利用をいただけるよう検討する。

E委員 マルシェひとつとっても、コロナによってキッチンカーが流行りだしているが、一方で衛生面の課題がある。5年先を考えると、衛生面の設備は当初から整え、受け皿を作っておかないと5年後にマルシェをしようとしたときに昔のキッチンカーを持ってこなければならぬという事態になる。観光の創出には、もっとキャパを広げて設備を整え、電気の供給も空配管を設けておくことも重要と考えている。

F委員 10ページのスポーツパークにテニス場と書いているが、競技人口はフットサルやミニバスケットの方が若い子の利用が多い。そういう施設を増やせば、多くの利用者が来てくれる気がする。テニス場8面と書いているが、半分にしてフットサルやバスケットを入れたらどうか。

事務局 スポーツパークの目標値の参考として陸上競技場とテニス場の利用者数を積み上げた。当然、これから地域の方々のニーズや利活用いただく将来性、いただいたご意見も含めて、どういう競技ができるのかについて今後検討していく。

議長 大きなご意見として、落差工をどうするのかというご意見を頂戴したが、本計画案については、大筋の了承とさせていただき、本日いただいたご意見を踏まえた取りまとめを事務局に一任したいと思うがよろしいか。

E委員 5ページ、実行委員会のメンバーにあるその他の関係者というのはどういう方を想定しているのか。

事務局 今後、実行委員会を開催するが、ワークショップやフィールドワーク、環境学習など、この施設が供用されるまでの助走期間としての施設利活用方法や、実行委員会にどういった方々に来ていただくのか、といった議題を想定している。今後、内容に応じて説明をさせていただきたい。

E委員 当初から全体の構想的なことをプロモートする先進的な専門家を選任し、

実行委員会のメンバーとすると良いと考えるので検討願う。

A委員 落差工について、一定の安全対策は必要ではないかというようなご意見もあったので、引き続き、我々の方で検討させていただき、また協議会の場や、市長とも相談しながら情報共有させていただきたいと思う。

議長 ありがとうございます。それでは、本日いただいたご意見を踏まえた取りまとめは事務局に一任し、今後、事務局において申請に向けた手続きを進めていただく。

(3) 協議会のスケジュール及び当面の予定について  
資料3に基づき説明

主な質問・意見

E委員 協議会開催の日程調整を早めにしていただきたい。

事務局 日程が決まり次第ご連絡させていただく。

A委員 計画の申請に関して、申請受付が6月にあり、審査のうえ、登録されれば8月ぐらいに認められるが、現時点で全国でどのくらいの数の計画の申請があり、どのぐらい厳しいハードルが設定されるのか、我々としてもわかっていない。登録に向けて市長にご協力をいただき、良い計画書の作成をしたいと思う。  
それから1点修正があります。資料2の11ページ、関連事業の「MIZBEステーションの整備」の項目に、「MIZBEステーションの整備を行っています」と書いているが、まだ整備は始まっていないので、「検討を始めています」等の表現に微修正させていただく。

3. その他  
特になし

4. 閉 会

以上